

一般的なWebGISと「セキュアGIS」の比較

2021/05/13 NeoGIS

	一般的なWebGIS (NEOGIS Open-Base II)	「NEOGIS セキュアGIS」
使用形態	Web-GISサーバ (クラウド、イントラ) + クライアントPC	Web-GISサーバ (クラウド) + クライアントPC
背景データ	背景地図サーバより配信。	背景地図サーバより配信。
主題データ	サーバに保存 一般的にはサーバ上のDBに保存。	クライアントPC内に保存 クライアントPC上のCSV、kml、GeoJSON、shape形式ファイル。
主題データ地図表示	主題データはサーバで地図化、またはネットワーク上を流れクライアントPCのWebブラウザで地図化される。	主題データはクライアントPC上のWebブラウザで地図化される。 ネットワーク上を主題データが流れない。
安全性	安全性確保には、サーバDBの堅牢化、ネットワーク上を流れるデータの暗号化、VPN、専用線等の措置が必要。	完全セキュア 主題データはクライアントPCから外に出ない。
GIS機能 処理性能	WebGISのフル機能を使用可能。 処理性能はクライアントPCより、サーバPCの能力に依存。	全てブラウザ上での処理となるため、GIS演算等複雑な機能は実装できない。 処理性能はクライアントPCのCPU能力、メモリ容量に依存。
主題データ件数	弊社Open-Base IIであれば億単位のレコード数にも対応可能。	クライアントPCの能力によるが、最大数千レコード。
モバイル	スマホ、タブレットも使用可能。	スマホ、タブレットは想定していない。
用途	さまざまな用途で使用可能 実績GIS：公開型、固定資産、防災、現地調査、 営業管理、工事管理。。。	専用GISを導入するほどではないが、データを地図上で可視化したい業務。 住所を持つデータをエクセル等で管理している業務。
導入	一般的なシステム導入 (設計、データ加工、サーバ構築。。)	インターネット接続環境、ブラウザさえあれば、すぐにデータのGIS化が可能。 ソフトのインストールは不要。